



神のみぞシール

いよいよ受験のシーズンである。さて、そんなシーズンだからか、面白い記事があったので引用してみよう。

＊

安心？やり過ぎ？絵馬にシール

個人情報流出を懸念

受験の願掛けたけなわの季節。絵馬に記された願いごとや氏名が他人に見えないように「対策」を取る寺社が広がっている。ネット時代に改めて個人情報保護の意識が高まった形だが、「過敏だ」「縁起物の由来とずれている」との声もあり、受け止め方は様々だ。

「縁起だるま」発祥の地として知られる群馬県高崎市の少林山達磨（だるま）寺。1月下旬、本堂の横には、白い下地の「情報保護シール」が貼られた絵馬がずらりと並んでいた。群馬県渋川市の中学3年の長島有里さん（15）も、志望校とともに「合格しますように」と書いた絵馬にシールを貼った。「校名や住所を詳しく書いた方が願いごとがかなう気がして。シールがあれば安心です」

シールは2年前に住職の妻広瀬みちさん（56）が導入を提案した。絵馬をひっくり返して願いごとを読んで笑う参拝客を見たのがきっかけだ。番地まで住所が書かれたものも多く、心配になった。以前に関西の寺社で見たシールを参考に、2千枚を発注。参拝客に無料で配るようにした。当初はシールを貼る人はほとんどいなかったが、現在は半数が貼ることを選ぶという。

東京都の男性僧侶も昨年11月に「神のみぞシール」と銘打ったシールをつくった。個人情報を書かれた絵馬がツイッターなどに野放図にアップされるケースが散見されたのが気になった。シールの完成をツイートすると、約2万人が「いいアイデアだ」などと言葉を添えてリツイート。1カ月足らずで数

百枚の送付希望があった。

京都市左京区の下鴨神社でも2005年ごろから、縁結びの神を祭った境内の「相生社（あいおいのやしる）」で、希望者に絵馬のシールを渡している。思い人の名を書いた絵馬を修学旅行生が携帯電話で撮影している様子を職員が見たのがきっかけだ。いまでは9割がシールを貼る。

「神様が願いごとを読めないのでは」と心配する人もいるが、神職で広報担当の東良勝文さん（39）は「文字が見えなくても、神様には見えていて伝わるので大丈夫」と話す。

スライド式2枚重ねの「合わせ絵馬」もある。宮崎県日南市の榎原（よわら）神社の縁結び絵馬は下の板のハート形の中に願いごとを書き、上の板で覆う。「好きな人の名前は他人に見られたくないでしょうから」と権禰宜（ごんねぎ）の日高博史さん（31）。文京区の湯島聖堂も合わせ絵馬を導入している。

一方、福岡県宗像市の宗像大社はこうした対応はしていない。絵馬を裏返して批評したり撮影したりする行為があれば注意するという。広報担当は「そもそも絵馬は神社への奉納物が起源で、人目に触れるもの。書くことで決意を固め、神様に見守ってもらうという意味がある」。個人情報保護の動きについても、「本来の由来からすれば、神社側も参拝客側も敏感過ぎるのでは」との見方だ。

学問の神様で知られる福岡県太宰府市の太宰府天満宮も特に対応はしていない。広報担当は「決まった書き方の形があるわけではないので、神社が書けとか書くなと押しつけるものではない。願いごととは書ける範囲で自由に書けばいい。気持ちは神様に伝わります」と話している。（朝日新聞2月1日朝刊）

＊

安心？やりすぎ？さあどっち？